

## 《かまくら金魚ちょうちん》誕生の由来

朝日新聞昭和59年6月24日 日曜版を見て、山口県大島町にお住いの上領(かみりょう)さんを知り、こちら方面では当店のみ販売を許され、長い間夏の風物詩として店軒に飾り、皆様に大変喜ばれ、お買い上げいただいておりますが、製作者の上領さんが平成11年11月に亡くなりました。後継者も無く、その後も《金魚ちょうちん》をほしいと言われる方が多く、展示してあった金魚ちょうちんを元に、不器用な私が作る事になりました。今年で3年目、やっと形になってきましたが、先代の作品に比べるとまだまだですが、かわいい《金魚ちょうちん》を作れるように頑張りますので、宜しくお引き立てのほどお願い申し上げます。

二代目かまくら金魚ちょうちん作人  
はせ したく

## 御挨拶

私の家は鎌倉三沢の流れをくむ矢沢本家植木職を祖父が当地に独立分家して、私が3代目になります。祖父、父は植木職人でしたが、昭和29年6月、燃料、氷の販売を始め、その後、石油、LPG、日曜大工用品、園芸用品等も扱い、最近は福島会津の桐下駄や大分日田の焼杉健康下駄を販売して、土地柄多くの方に喜ばれお買い上げいただいております。

「鎌倉金魚ちょうちん」は、《何か良い事ありそうだ》をキャッチフレーズにしております。

風雪50年、多くの方に助けられ、支えられ、乗り越えてきた運気を《金魚ちょうちん》に込めて、お買い上げ戴いた皆様に、なにか良い事ありますようにと念じ、結婚35年の内助に支えられ製作する夫妻和合の《金魚ちょうちん》でございます。この2年間で300張ほど作り、国内外に鎌倉の香を乗せて嫁ぎ喜ばれていますが、なぜか金魚をお分けするときは、娘を嫁がせる様な気がして、いとおしく手放したくない思いになります。

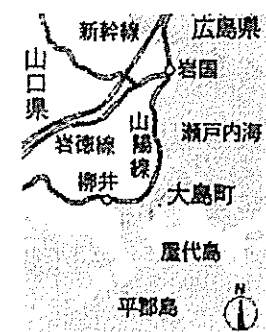
《鎌倉金魚ちょうちん》は、色合いも紅白とおめでたく、お祝い事やお見舞い等に大変喜ばれております。

先代の《金魚ちょうちん》は、2500円で販売しておりましたが、私の金魚ちょうちんは、材料代として

平成16年4月

有限会社 **矢沢商店**  
矢沢 良太郎

〒248-0016 鎌倉市長谷2-5-37  
TEL 0467-22-3292



しかし、八十歳の老人が以前に作っていた一人と聞き、取りあえず会いに出かけた。病気の老人は、床にふしたままで思いつくようにポツリ、ポツリ作り方をおしえてくれた。帰りがわに「いい後継者ができた」と金魚ちょうちんをつくれた。

その日から上領さんは竹ヒゴづくりに取り組んだ。そう簡単なものではなく、何度やっても失敗ばかりしていた。十日ほどして、また老人を訪ねた。玄関の戸は閉ざされ、近所の人から三日前に亡くなられたと聞いた。ぼうぜんとしてしまった。

日当たりのいい縁先で、上領さんはそんな思い出話をしてくれた。潮風にゆれる金魚ちょうちんには、人知れぬ苦勞話秘められていた。

大島 山口県

## 金魚ちょうちん

原田泰治の世界

糸につるした金魚は竹ヒゴと和紙で作られていて、わずかな風におよぶようにゆれた。偶然、立ち寄った旅先の食堂で見つけたのだが、その主人にどこの郷土玩具(かんぐ)かを聞いてみても、知人からのおみやげとのこと。そのうちに上領(かみりょう)芳宏さん(ご)が作る金魚ちょうちんと分かり、山口県大島郡大島町を訪ねた。ため池に沿った道は夏草が茂り、水辺の柳からヨシキリの鳴き声が聞こえてきた。上領さんは二十五年前、公務員時代に胸をわずらい療養生活がつづいた。やがて退院したものの、人形づくりなど手仕事で暮らすことにした。

そんな折、柳井地方に古くから親しまれていた金魚ちょうちんを本で見た。戦争を境に影をひそめ、作る人はほとんどいないといわれていた。